



## 4. 留学中の生活

### ①ホームステイによる滞在

留学中はできる限り多くの時間、生の英語に触れてもらうこと、現地在住人と生活を共に過ごすことにより英米の風習やマナーを吸収してもらうこと、参加者の日々の安全確認等を考慮し、滞在期間全てを通してホームステイによる滞在中にした。

### ②ホストファミリーの選定

滞在中のファミリーは原則として1家庭1国籍とし、日本人のいない家庭とした。ホストファミリーの選定にあたっては他にも本学独自の基準を設け、その基準をパスしかつ、留学生の受入を積極的に行っている信頼できるファミリーとした。

# 留学中の生活(ホームステイによる滞在)



# プログラム費用 (イギリスの場合)



## 留学費用(2014年度見込概算)

ホームステイ費用(16週分/手配費用£50含む)	£2,300
交通費,昼食代(16週分。£250/月を目安として)	£1,000
教材費等 (現地におけるテキスト代等の教材費、フィールドワーク時の交通費等)	若干(£300~400)

## 渡航費用(2013年度実績)

航空運賃(ロンドン往復。燃油、空港税を含む。)	¥240,000
海外旅行者傷害保険(4ヶ月分/補償額により異なります)	¥60,000~

## 現地受入体制



工学院大学では参加者に対し、十分なガイダンス、オリエンテーションを行ない、参加者のハイブリッド留学に対する認識を深め、さらに現地において提携校はもちろん、本学と業務委託した現地在住日本人コーディネーターも、生活に関する相談や怪我、病気等に対して24時間体制で支援を行う。また、学生滞在期間中には本学職員を現地へ派遣し(1回2週間程度を予定)参加者の状況確認を行う。(職員もホームステイによる滞在)

## 緊急時の対応

留学期間中参加者に緊急の事態が発生した場合は、本学緊急対策マニュアルに従った迅速かつ確実な対応を行う。グローバル戦略室担当者は学生滞在期間中は24時間体制を敷き、緊急連絡を受けてから規定時間以内に現地に到着できる体制を整え、現地での迅速かつ適切な対応に全力を尽くす。

# 参加中の学生の声



**K・Y(女・建築デザイン学科)**「自分の中の何かを変えたいと思いました」

**Y・I(女・建築デザイン学科)**「1日1日がすごく濃くなっています。人任せではなく、自分から動かないと！という気持ちになります」

**K・S(男・まちづくり学科)**「就活などの不安要素は確かにあるけど『行けるのは今しかない』と感じました。ヨーロッパを身近に体感して、ホームステイを通して生活様式の違いを学びたい。写真では伝わらない景色の美しさに出会うたびに、来てよかったと本当に思う」

**K・Y(男・建築デザイン学科)**「若いうちにしかできない経験だと感じて、ぜひ参加したいと思った。」

**S・A(男・建築デザイン学科)**「建築を学ぶ上で、ヨーロッパの建築物や街並みをじっくり見てみたいと思い参加しました」

**M・K(男・まちづくり学科)**「とにかく街が美しく、オープンスペースが多い。日本では味わえないことがたくさんあって、現地に来てみないとわからないよさがあります！」

**Y・Y(男・まちづくり学科)**「せっかくのチャンスなので、チャレンジしたかった。自分を見つめなおすきっかけになる。英語もしっかり身につけたい」

**M・M(女・建築デザイン学科)**「大学時代の思い出にしたかったので参加した。チャレンジが大切です！」と感じて、ぜひ参加したいと思いました」

**T・K(男・まちづくり学科)**「風景以外でも、実際に話さないとわからないことばかりで、毎日充実していて楽しい。せっかくの機会だから皆にも是非来てもらいたい。自分の可能性を信じてほしいと思います！」









# 5. 法令上の課題

## ① 授業期間(集中授業形式)

2013年度の設置基準一部改正により柔軟な運用が検討しやすくなっている

### 1 大学及び短期大学における授業期間

各授業科目の授業期間について、10週又は15週にわたる期間を単位として行うことを原則としつつ、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができる認められる場合には、各大学及び短期大学における創意工夫により、より多様な授業期間の設定を可能にすること。(大学設置基準第23条及び短期大学設置基準第9条関係)

## ② 授業を行う場所(サテライトキャンパス等)

現状は社会人学生が国内で履修するケースのみ想定

大学設置基準第二十五条第四項の規定に基づき、大学が授業の一部を校舎及び附属施設以外の場所で行う場合は、次に掲げる要件を満たすものとする。

- 一 実務の経験を有する者等を対象とした授業を行うものであること
- 二 校舎及び附属施設において十分な教育研究を行い、その一部を校舎及び附属施設以外の場所において行うものであること
- 三 当該授業を行う校舎及び附属施設以外の場所は、実務の経験を有する者等の利便及び教員等の移動等に配慮し、教育研究上支障がない位置にあること
- 四 当該授業を行う校舎及び附属施設以外の場所は、教育にふさわしい環境を有し、当該場所には、学生自習室その他の施設及び図書等の設備が適切に整備されていること

教育効果をあげるための工夫を前提に、また国外であること等を条件に、一定の単位数(例えば20単位:半年間で履修できる程度)について、授業を行う施設の条件を柔軟に運用することで、**飛躍的に日本からの留学生を増やすことが可能**になるのではないか。

# 今回のプログラムでの現地での実習、授業の考え方①



イギリス(カンタベリー市)で行うのは、通常の授業において、野外で行う実習、予習、復習等の通常校地、校舎を利用しないのできる部分とする。

留学した学生は3年後期の多くの時間を海外で過ごすことになるが、後期の履修については、下記の通りの扱いとする。

①2013年9月17日(後期開始日)～2014年1月7日(学生帰国日)

イギリス(カンタベリー市)及びオプションツアーで訪問する周辺地域での学習

②2014年1月8日～2014年1月20日(後期授業終了日・補講日を含む)

日本(工学院大学構内)での授業・学習

③2014年1月21日～2014年1月25日

後期試験

※単位修得にあたっては①②③を満たすこととする。単位数は17単位とする(選択専門科目)。

※留学中、学生は校地・校舎を利用できないことになるので、それによって不利が生じなくなるよう、工学院大学は、現地提携校の施設を確保するだけでなく、学生の現地専門施設の利用(例えば、提携大学や建築家協会の図書館)等に、最大限の便宜を図るものとする。

※通常の後期試験を行うだけでなく、留学した学生の成果が、留学していない他の学生にも活かせるような工夫(例えば、成果の公開発表会)を行う。



# 今回のプログラムでの現地での実習、授業の考え方②



## ■単位を与える授業(本学教員が実施)の考え方

1科目17単位の新科目とする。単位は、卒業要件の選択の専門科目として扱う。

現地に行き指導する教員(短期集中で交代で指導)の指導内容、現地における実習環境から、建築学部の通常カリキュラムにおいて、下記の選択専門科目に該当するものとみなす。

芸術学概論(2単位、3年前期)、デザインサーベイ(2単位、3年前期)、建築施設論(2単位、3年前期)、地域施設計画(2単位、3年後期)、建築総合演習 I (4単位、3年後期)、建築セミナー(2単位、3年後期)、環境生態学(2単位、4年前期)、建築都市保存調査演習(2単位、4年前期)

※留学した学生は、国内で上記科目を履修してもよいが、当該科目の単位については、卒業単位には含めないことにする。

※現地で実習を行うことにより、学生に対して、上記科目を国内で履修するのと同様以上の教育効果をあげる。現地での実習の指導内容は、国内の授業と同じにはせず、各教員が交代で短期集中の授業を行うことによって、より教育効果があがる内容とする。

# 6. 今後の展開



## 留学先の拡大(学生が住みたいと思う街へ)

ハイブリッド留学の展開には、留学先の選定が重要な要素である。  
学生が『行ってみたい、住んでみたい』と思う街でなければならない。

2014年度より開始予定のアメリカ・ハイブリッド留学は  
工学系、情報系、化学系学科を主対象として開発している。

舞台はワシントン州シアトルを選定。

マイクロソフト、ボーイングの街として工学系、情報系学生に興味を抱かせる要素は十分。



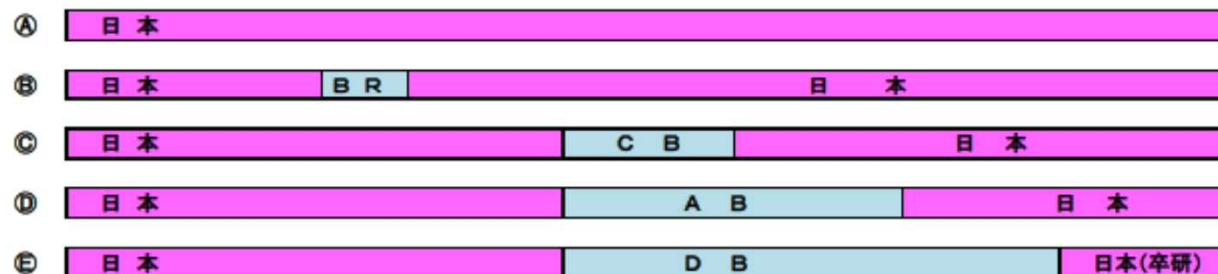


# ハイブリッド留学から長期留学等への展開

1年次			2年次			3年次			4年次		
4	6	8	4	6	8	4	9	12	4	9	3
	10週			10週							

建築学部を除く全学部・全学科

日本 HBUS



建築学部

日本 HBUS



**HBUS** ハイブリッド留学・アメリカ    **HBGB** ハイブリッド留学・イギリス

**BR** TOEFL 未到達者向け Bridge Program(体験型留学プログラム。現地でのインターンシップなど)(10週間留学)

**CB** Certificate+BE(米国協定大学修了証+工学院大学学士)取得プログラム(6ヶ月間留学)

**AB** AAS+BE(米国協定大学応用準学士+工学院大学学士)取得プログラム(1年間留学)

**DB** Double Bachelor(米国協定大学学士+工学院大学学士)取得プログラム(1.5年間留学)



# 「トビタテ！ 留学JAPAN」構想実現に向け

(大学生の海外留学12万人達成へのKEYとして)

文部科学省は、大志あるすべての日本の若者が、海外留学をはじめとして新しいチャレンジに自ら一歩を踏み出す気運を醸成することを目的として、留学促進キャンペーン「トビタテ！ 留学JAPAN」を開始した。

その主な骨子は、ターゲットイヤーである2020年までに、大学生の海外留学12万人(現状6万人)を目指すというものである。

語学と費用の壁に阻まれ、減少の一途をたどる留学者数を、あと7年で反転させた上に倍増させるためには本学の方式が最も有効と考える。

まさに文部科学省の考える

「大志あるすべての日本の若者が、海外留学をはじめとして新しいチャレンジに自ら一歩を踏み出す気運」を作ることが最も重要であり、「まず語学の修得から」という100年以上も前から延々と続く「型にはまった」スタイルから脱却し、「まず海を渡らせる」という工学院型に変換しなければならない時期は、「今」ではないだろうか。

大学が本腰を入れて学生の留学をその裾野を広げて促進させるためには、まず舞台(学生が暮らしてみたいと思う街)を用意し、次にハードル(言葉と費用)を劇的に下げることにより実現できるものと確信する。

語学は必ず後からついてくるものである。

若者にまず海を渡らせ、グローバルな感性、感覚、視点を吸収させてから、次の段階(ジョイント、ダブルディグリーなど)の留学を展開すべきである。

# イギリス・ハイブリッド留学

2013年度参加者実績

**21名**（男子学生15名、女子学生6名）

建築学部3年生（対象学生）280名／21名参加。参加率7.5%

工学院大学はこれからも本学のDNAである

『**First One**』・『**Only One**』に

こだわり続けた取り組みを展開していきます。



*Globalization,  
It is not a Desire, It is a Requirement.*

